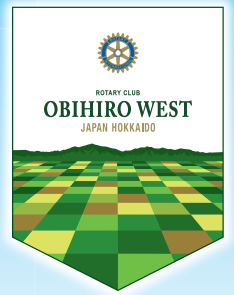




帯広西ロータリークラブ 第1997回例会 2013.5.23 会報



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

ゲスト

ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会
代表 小林 志歩様

会長報告



川田会長

今朝5時半に起き例会に間に合うよう朝一番機で東京より参りました。本日は、国際奉仕担当例会で、毎年のように小林 志歩さんに来て頂いておりますが、「例会で川田さんお会いするのは初めてですね」と指摘を受けてしまいました。

今日は国際的なお話にちなんでドルの交換レートについてお話しします。昨年ヨーロッパに行った時は1ドル70円台後半でしたが、今年行った時は100円位いでユーロにすると120円台で損をした気になりました。今日の為替は1ドル103円台にのっており、今後110円までいく、いかないで騒ぎとなっています。

私が初めてアメリカに行った時は1ドル360円当時の固定レート時代でした。固定レートが始まったのは戦後の1949年からでニクソンショックまでの22年間固定制が続きました。昭和初期には1ドル1円の時もあり、戦争直前は4円20銭で、実はその時代はポンドが基軸通貨でした。しかし、イギリスがドイツの空爆を受け経済にダメージを受けており、本土に攻められなかったアメリカは戦後経済が安定したため、基軸通貨がドルになった。これに反対したのは経済学者のケインズで架空のバンコールという世界で一つの基軸通貨唱えたが、最終的にはドルになった。今ドルが不安定な為、当時のケインズの考えが見直されているところです。1ドル360円の時代があったからこそ今日の日本経済発展があったのは間違いなく、もう少しの円安が私的には良いのかと思います。



例会場ポロシリより前庭の蝦夷彼岸桜を望む

会務報告

大友幹事

- ・5月30日 帯広西RC夜間例会のご案内
- ・6月21日 帯広北RC移動例会のご案内
- ・来月の第一例会ではバナー交換をしたものを例会場に掲げます。

委員会報告

ロータリー情報委員会 田中委員長

- ・第2回目の家庭集会を6月15日まで開催して下さい。
- 次年度幹事 奥田会員
- ・活動計画書及び手帳の記載事項、写真変更の確認をお願いします。

ニコニコ献金

親睦活動委員会 萱場会員

- 小谷典之会員 越智委員長欠席ですが国際奉仕担当例会よろしくお願ひ致します。
- 古田敦則会員 2週連続欠席申し訳ありません。東京でメーカーキャップしてきました。
- 久保且佳会員 高松でのゴルフでラッキー賞のゴルフクラブを頂きました。
- 川田章博会員 ゴルフ同好会で久しぶりにブービー賞をとりました。
- 田中耕吾会員 ゴルフ同好会で優勝しました。今度は真中賞を目指します。
- 石原英樹会員 ゴルフ同好会で準優勝。5クラブ対抗戦22名参加で優勝しましょう。
- 笹井祐三会員 ゴルフ同好会で真中賞頂きました。パートナーの3名に感謝します。
- 大友広明会員 帯広信金信友会コンペAクラスで優勝しました。



ニコニコ 献金	5月23日	16,000円
	累計	622,340円 (5月23日現在)



会長 川田 章博 副会長 岡田 武稔 会場監督理事 上垣香世子 発行：広報委員会
幹事 大友 広明 副会長 古田 敦則 プログラム委員理事 河西 智子 委員長 鈴木 享 (副)本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

2007年からモンゴルへの支援を西クラブでおこなっております。当時の副会長尾藤会員にお話しを頂いた後、ゲストの小林志歩さんにお話し頂きます。

「2007年モンゴル見聞録」 尾藤 輝幸 会員



私は2007年、当時岡田会長に強引に誘われ越智会員と川田会長とモンゴルに行っていました。ウランバートルのRC例会にも出席し交流をはかってきました。向こうで案内して頂いたのはバギーさんと言う民宿をやっているボランティアの方で、その方にドライバーをして頂きました。目指す目的地はチョロトスム小中学校で、600キロ離れた所でしたが、途中宿泊するとは思わなかった。丸いテント小屋に泊まるはめになって夜は寒く、マキはなくなるし、志保さんが泊まっている隣のテントに岡田会長がマキを盗みにいってくれました。

2日目そこを旅立って現地に夕方到着したのはバギーさんのお母さんの家で、お母さんはお酒が好きだと聞いており酒を買い込み持っていきました。家には電気は無いテレビは無いの無いもの尽くして、そんな中で生活していますが、お母さんや子供は素晴らしい笑顔で迎えてくれました。そこで一夜を過ごす訳ですが、お母さんとは言葉は通じなく酒を酌み交わすしかなく、お酒もなくなりそのまま寝ました。次の日は学校まで40キロあり朝早く起きましたが、放牧する家畜を追って子ども達が手を繋ぎ私も行きましよう誘ってくれていきました。しばらく行くと大変なのですぐ戻ってきましたが、本当に素直で純粋な子ども達だと思い感動致しました。その後学校へ向かいましたが、学校が休みだったので校長先生を訪ね奨学金を渡して帰ってきました。帰りには子供たちと別れるのが辛く自動車が見えなくなってまで手を振ってくれました。そんな光景をみて、川田会長が繋いでくれたモンゴルですから、今後も続けなくてはいけないと感じます。

「モンゴルの現在について」 ハイルハンバグ子ども 応援奨学金の会代表 小林 志歩 様



毎年お招き頂きそしてご支援頂き誠に有難うございます。

今日のお話は、皆様に頂いた5年間の支援金をどの様に現地にお届けしているかですが、5年前のモンゴルとはかなり違っているのでそのことについてお話致します。

支援をもらっている対象の小学校の写真ですが、私たちの奨学金の会は2007年9月発足で事前準備をしている段階に一緒に来て頂いて発足にこぎつけた訳です。

こちらは、モンゴルのウランバートルで仲間としてやって頂いておりますバギーさんで、本当に信頼できる企業家でもある方です。ここでは、ハイルハンバグ子どもの状況は悲惨で、学校から40キロ離れていて中退する子供たちが多く、そういう状況の中でまず入学する段階で学校に行けるように支援してきました。

次に数字の話をさせていただきますが、5年間でどのような活動をしたかをまとめました。今ではこのように寄付金が大変増え西クラブの皆様にも大変お世話になり有難うございます。学校支出とは子供達に直接お渡しした、教科書、医療、カバンとか学校に通うのに必要なものと休みに親元に帰るための交通費になります。今日お配りのチラシにその仕組みがイラストで書いてありますのでご覧願います。事務局経費というのはウランバートルの経費で現地の状況を確認するためにガソリン代がほとんどを占めております。チョロトスムは首都から600キロありなかなか現地で物資が調達できずウランバートルからバギーさんがいろいろ仕入れて届けているのです。その他学校とウランバートル間の電話料金などが含まれ合計すると589,000円となります。その他もろもろ掛かってはいるのですが現地の学校の先生や皆さんはボランティアで非常によくやってくれております。次に5年間の奨学金の渡した人数ですが、グラフではこのようになりますが、どんどん増えていっており、今後ともご支援お願いいたします。冒頭川田会長が為替レートのお話をされましたが、この5年間では大変円高に助けられました。発足当時は125円でしたが2011年には80円で向こうでは物価が急上昇しているがその影響が少なく済んでいます。

(以降近況写真説明 中略)

最近モンゴルは経済成長が著しく給与も改善されてきていますが、それ以上に物価が上がっており依然として庶民の生活は大変なようです。モンゴルの面積は日本の4倍ですが今後政府が力を入れていくのが農業で耕作地が現在は、34万haでその内小麦が30万haとほとんどで、私たちが行った当時は12万haで急激に農業がビジネスとしてクローズアップされております。ここ数年の間ウランバートルの街の様子も急激に様変わりしましたところですが。

最後にバギーさんご夫妻と尾藤さんと一緒にお酒を飲まれたお母さんの写真です。是非またお酒を飲みにウランバートルに行っていたらと思います。

